



2023.9 No.460 MONTHLY MITSUWA

目次

『社長就任にあたり』	P.1-3	…庄田
『このフレーズ言ってませんか!?』	P.3-4	…菊池
『脇を締めて事業所強化!』	P.4-5	…齋藤
『見る側が安全度を決める』	P.6	…川島
『宇都宮LRT開業に貢献』	P.7	…森
『報告・連絡・相談』	P.7-8	…荒田
『やる気ひとつで何でも出来る』	P.8-9	…大宮
『皆の「変化」に期待』	P.9	…大塚
『大規模工事で信頼される』	P.9-10	…大野
『接続ブロック新設への挑戦』	P.10	…成田

社長就任にあたり

維新建設(株) 代表取締役 社長 庄田 雅直

〇ご挨拶

維新建設社員の皆さん、ならびにご家族の皆様、9月より新社長に就任した庄田です。どうぞよろしく申し上げます。私は平成11年(1999年)に入社以降、主に管理業務についてきました。また、平成21年7月から専務取締役として他社の会社経営者さまと交流を深め、多くの意見交換や勉強会に参加させていただきました。この24年の間に経験したプロジェクト工事をいくつか紹介させていただきますと、臨海線建設に伴う大崎駅改良、上越新幹線本庄早稲田新駅、佐野駅 JR・東武橋上駅舎化、太田駅高架化、新伊勢崎駅高架化、東武野田線複線化、八ッ場ダム建設吾妻線付け替え、吉川美南新駅、北陸新幹線上越エリア新設、北海道新幹線函館延伸青森エリア新設、JR北海道函館エリア支援、東日本大震災岩手県山田線復興、同福島県常磐線復興工事、宇都宮 LRT 新設などが挙げられます。いずれの工事も、遠方へ従事してくれた社員と理解して頂いたご家族様、そして地元に残り応援してくれた全ての社員に感謝しなければなりません。また、どの工事も乗り越えなければいけない局面があり、組織としてチームとしてあらゆる課題と向き合った経験が、現在の会社や社員の財産として残っていると感じています。

そして、会社の沿革に関する経験としては、JR 東日本様の施策「平成13年8月のエリア変更」があります。このエリア変更では、元請け会社の「ユニオン建設(株様)」とともに高崎線から外れ、新たに東北本線・宇都宮エリアへ引越しとなりました。また、歴史ある高崎線沿線の桶川事業所と深谷事業所を断腸の思いで維新建設から切り離し、新会社「高崎建設」を発足させ、高崎線を熟知したベテラン社員らも一抹の不安を抱えるなか、新たな元請会社様の協力会社として再スタートに取り組みました。ちなみに、体制変更した当時は、現在の桶川事業所が「維新建設と高崎建設」双方の窓口事務所としていたため、電話も FAX も同じ番号で運用しており、電話に出る時など元請け会社様により「維新建設です、高崎建設



です」と社名を使い分けていました。“エリア変更”だけを切り取ってみても多くの失敗談があり、それなりの大変さはありませんでしたが、今となっては愉快的エピソードとして記憶に残っています。この翌年、平成 16 年(2004 年)5 月 26 日に、本社：北九州事務所の管理業務を一部関東に移す目的として、JR 川越線指扇駅前に事務所を開設いたしました。これが指扇事務所改め現在の“さいたま事務所”となっています。

○目指す会社づくり

社長就任にあたり、私が目指す会社づくりを紹介いたします。

①「強い会社」をつくる

昨年の 9 月社報にも書きましたが“モノづくりの原点は人づくり”です。私たちは、社会の公共交通機関である鉄道輸送の安全と安定を支えるために存在しています。一方で、人手不足・少子高齢化という難題が社会全体に重くのしかかっています。そのため、引き続き人材の確保に向けた施策を最優先課題として取り組んでいきたいと考えていますが、もうひとつの見方として、社員一人ひとりのスキルアップに力を入れていきたいと考えています。仮設を含めた社員の“気づき”や安全感度を押し上げ、チーム作業であるからこそ個人の技術力を上げることを目的に「情報収集、教育、訓練、資格取得」など、様々な取り組みを加速させていきます。そして、これまでも取り組んできた機械化の推進と、積極的なプロジェクト工事への参加といった機動力を加えて会社全体の総合力を高め、大規模な機械施工と少数精鋭によるコンパクトな人力施工が人手不足に向けた新たな作業スタイルと見据えています。私の目指す強い会社とは、結局のところ“人が経営資源”であることから、多くの社員が活躍する安全と技術の高い会社となります。

②「正しい会社」をつくる

私たちの現場では、鉄道輸送の安全と安定を支えるため日夜、ミリ単位の基準値内に仕上げていますが、過去には様々な理由で決められた時間内に仕上らなかったケースがあります。この場合は、当然ながら初列車の運転を抑止し基準値内へ再度、仕上げていくことが求められていますが、技術不足や計画の甘さ・見落としなどにより作業が遅れ、「基準値より少しくらいなら後日、仕上げれば大丈夫」との誤った判断を行い、仕上り不足の状態での作業を終了させてしまうといった残念なケースがありました。このような反省に立ち経験から学べば「事後の百策より事前の一策」との考えにたどり着きます。線路工事(軌道・土木)での仕上がりは、安全と同様に事前の調査や準備・備えに力を入れて取り組まなければなりません。また、社員の皆さんが安心して働ける職場環境へ常に取り組んでいくことも重要な仕事のひとつです。夏季の“冷やす取り組み”や冬季の“温める取り組み”そして“働き方改革”など、時代に沿った労務管理に取り組む社会の一員として正しく企業活動ができる会社へこれからも発展させていきたいと考えています。

③「美しい会社」をつくる

私たちは鉄道を支えるプロとしての美しさと誇りを持たなければいけません。タイトルに





ある美しい会社とは、社内の整理整頓が行き届いていることのみならず、雨の中、雪の中、うだるような暑さの中、凍える寒さの中、鉄道を支える使命感を背負って働く社員の姿勢が美しいと捉えています。さらにプロとしての美しさとは、(1)困難な場所や条件でも予定通りに完成させる、(2)災害時にいち早く現場へ駆けつけ経験から導き出した復旧プランを掲げ早期に列車の運行再開に貢献する、(3)線路内への立入り時や要所要所の確認に腕をまっすぐ目標に向けて指差し確認する、(4)自分の活動するエリアの線形や設備情報を常に把握している、(5)線路内や駅のホーム下に落ちているゴミや支障物の撤去を進んで実行する、(6)安全は「お節介なくらいでちょうどいい」という概念を持ち仲間の命を守るため声かけを積極的に行う、(7)家族や友人に自分が鉄道を支えていることの自慢ができる、以上の7点に集約しました。これらは私が24年の間に見てきた諸先輩らの働く姿に深く感銘を受けた事柄で、このような素晴らしい文化は未来へ受け継いでいきたいと考えています。

○45年の歴史から次の時代へ

昭和54年(1979年)5月に発足したわが社も現在は45年目となり、あと5年後には節目の50年を迎えます。会社の発足当時は、“イケイケドンドン”と表現される高度経済成長期の時代ではありましたが、瀬口社長の経営方針である「堅実経営」、「他社が敬遠した仕事を率先して請け負う」、「仕事の機械化」が発注者様から評価され、競合他社がうごめく北関東にて根を張り現在に至っております。時代は刻々と変わり“少子高齢化による人手不足”や“仕入れ価格の高騰”など、国内のどの産業においても厳しい時代となっていますが、何事も前向きに取り組み心だけは豊かにして頑張っていきましょう。そして、次の時代へ会社を発展させ、変わらない私たちの使命である鉄道の輸送を守り続けるために毎日を充実させていましょう。どうぞよろしくお祈いします。

このフレーズ言ってませんか!?

維新建設(株) 次長 菊池 純一

2023年度も早いもので来月から下期へと突入していきます。各事業所では今月(9月度)の従業員会議のなかで上期の振り返りと下期への意気込みなどを話し合われているかと思います。維新建設全体で2023年度上期を振り返ってみますと、労働災害になるようなケガや重大な運転支障に繋がるような事象は今のところ(9/10 現在)発生していません。直近3



▶ 点呼での禁句は電子黒板が封じる

年間の上期における事故事象ケガの発生状況を見てみましても、2020年度、2021年度では6件、7件と多く発生していたのが2022年度から急激に件数が減り、2022年度では2件、2023年度も2件に留まっている状況です。しかし、2022年度は上期の2件で終わるということは



なく下期に入ってから 6 件の事故事象が発生しました。このように上期は事故事象ケガがなかったから下期も同じように作業を進めれば事故事象ケガは起きないということにはならないことが分かります。もしかしたら上期が 2 件だったことにより、気の緩みや各自の脇が甘くなっていたこともあるのかと推察されます。

この業界に長く居ると元請け会社様も含め決して多くはないですが、「！？」と思うフレーズが聞こえてきます。そのフレーズとは「いつも通りで・・・」です。このフレーズは同じ作業が連続的に行われる現場や何回も施工して手慣れた作業などにたまに現れることがあります。このフレーズが現れると新規入場者は少し戸惑いを覚えます。施工方法は分かっているが「いつも通りで・・・」と言われてもいつのいつなのか分からないのが実情です。このフレーズが現れるとその現場には気の緩みが出始めています。毎日、同じ現場、同じ作業でもこのフレーズを真に受けると命取りとなります。このフレーズが現れると社員のほとんどが無意識に脇が甘くなります。「昨日と同じ、今までと同じことをやれば取り敢えずいいや」と思ってしまい作業を行います。この「いつも通りで・・・」というフレーズは、その人の過去の成功体験からくる発言であり、今まで事故事象ケガもなくやってこれたから今日も「いつも通りにすれば大丈夫だろう」という安易な考えがこのフレーズから見て取れます。しかし、今まで通りのやり方が実は間違ったやり方で、昨日まではたまたま事故事象ケガがなかっただけかもしれないし、たまたま周りの仲間助けられたかもしれない、兎に角このフレーズが出ると良いことがないです！結果、事故事象ケガが発生したら必ずと言っていいほど出るフレーズが「昨日は大丈夫だったから今日も大丈夫かと思った・・・」です。

社員の皆さんはこのフレーズが現れたら気を引き締めてください！当たり前のことでも再度確認してください！もしかしたら「そんな事も分からないのかよ！」「そんな事わざわざ聞くな！」と言われるかもしれませんが再度聞くことによって命拾いするかもしれないので作業員の人たちはぜひとも点呼で聞いてください。そして点呼を仕切る人は「いつも通りで・・・」「いつもと同じで・・・」というフレーズは言わないでください。

脇を締めて事業所強化！

小山事業所 所長 齋藤 忍

8月21日夜、ユニオン建設(株)大宮支店長様が小山区内の夜間作業を視察してくださいました。その際に厳しいご意見と暖かいご指導を頂きました。ご指摘頂いた内容も今まで私が見抜けなかったことへの恥ずかしさと共に、当夜の当事者及び日頃愚直に各々の任務を遂行している社員の皆様には、大変な誤解を支店長様に与えたことをこの場をお借りして深くお詫びいたします。今回のご指導を活きたものにするために、小山事業所一同の責務や責任感のギヤをもう一段階上げていきたいと思っております。そこで今回の社報はこれから取り組もうと思っていることを、小山事業所の皆さんに向けたメッセージにしたいと思います。先ず一つ目は「A・B点呼の進め方について考える」です。具体的にはB点呼に焦点を合わせると、新し



いホワイトボードになり、時間や役割など大変見やすく、改善点と言えば作成したホワイトボードの説明の仕方です。現在行っている点呼では点呼の最後に「質問ある方いますか？」と問いかけていますが、問いかける回数を増やしましょう。例としては、準備作業と本間合いがある作業手順の説明時に、準備作業の作業手順説明が終わったら本作業の作業手順説明前に一回問いかけを行いましょ。一呼吸置く取り組みです。責任者達はミーティング、ベテラン達は経験で理解出来ていると思いますが、新入社員や中堅社員はそうではないです。「そのくらい」「いまさら?」「いつもの流れ」と通常作業でもバカにせずに自分自身が行っている点呼の進め方について考えてみてください。また、

聞く方も理解が出来ていないのであれば質問しなくてははいけません。まさに問いかけ確認会話です。無言が理解あったと思うのではなく無言は理解できていないから質問が来ないと疑ってください。

二つ目に「安パトの充実化」です。現在の流れは、当夜行った安パト結果について終了点呼時は勿論のこと、朝礼の時にその都度報告してもらっていますが、当夜あいまいに記憶しているルール等は翌朝の朝礼までに正確なルールを確認して周知や指導を行います。場合により当事者を呼んでの面談形式で改めてルールの確認作業を行います。うろ覚えなルールやその他曖昧なことは一緒に勉強して、次回の作業に役立てましょう。

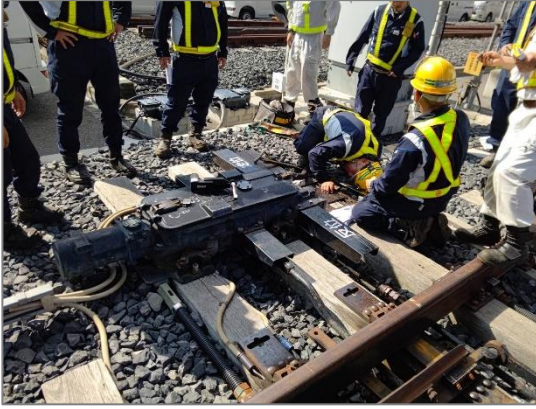
最後に「キャンペーン」についてです。現在行っているキャンペーンは「ありがとうキャンペーン」です。8月からキャンペーンを行い1カ月経過しました。このキャンペーンは日頃の感謝を相手に伝えたいのと、言わなくても解かるだろ?と言ったような考えを改めてもらいたく発案しました。また、お礼を言われた人はうれしいから次も手を指し伸べたり、声を上げたくくなりますよね。その連鎖が声掛けや報連相、点呼時の質問になり、高め合う関係性になればと思い始めました。決して単純にクオカードを配りたいだけのキャンペーンではないんです。今月、リーダー会議を行い「ありがとう」を集計しましたが全然足りません。私自身、安パト時に聞いたり見かけたりしている声かけや、一部の社員が行っている荷物運びなど「ありがとう」等は上がってきた件数より遥かに多いと思っています。是非、どんなことでもよいので「ありがとう」があった時は報告してください。

これから下期が始まります。事故事象は何時襲い掛かるか誰にも解かりませんが、すぐ近くまで忍び込んでいると思います。何もない時だからこそキツイ口調や鋭い目線で現場を巡回します。決して憎さや恨みを売るわけではありません。小山事業所全員に愛を込めて行いますので、改めてよろしくお願ひします。



見る側が安全度を決める

分岐器調整作業の勘どころを学ぶ
宇都宮社員



宇都宮事業所 所長 川島 健路
皆さんお疲れ様です。丸一年とひと区切り、ユニオン建設様の全現場において要注意事故は発生していません。夏季の連休明け事故防止会議にて、齋藤支店長様より「要注意事故完封が最優先、それは絶対に違いますからね！！」と念押しされました。これは我々の安全度、すなわち「作業現場、列車の運行、仲間とお客様の命」全ての安全が最優先される

ことを意味していると思っています。何事もなく作業を終え、完璧な仕上がりで発注者様へ線路をお返しすることが我々の使命ですが、時にはその完璧のために躊躇なく列車を止めることが、安全の確保のために最優先になり得ると言うことを、宇都宮 27 名全員の共通認識として業務に臨みましょう。

「失敗を経験した会社は強くなる」と言う人もいますが、私個人的には『強い会社はそもそも失敗しない』のだと考えています。何故か…？訓練や教育、教訓に対する振り返りと対策を重ね異常時のリスク管理が出来ている、練度が高く施工体制が盤石であるなどの理由で、イレギュラーが発生しても次の一手や応用手順をすぐに導きだし対応出来る。つまり、何かあったときこそ会社の強さが見えるものだと思います。前置きはともかく、我々宇都宮事業所を端から見た時、その安全度はどう見えているでしょうか？「維新建設なら間違いない！」と言って頂ける状態でしょうか？と、私が他人事のように偉そうなことを言えませんが、決して胸を張って『俺たちに任せろ！』と言える状況ではないと、少なくとも社員の大半が感じていたり自覚していると思います。何故か？私も含め 100%の自信がないまま、仕事に突入しているからではないでしょうか？

これからの時代において、生産性・施工性の向上、それから会社の安全度を決めるのは①業務のビジュアル化②職人的業務を継承するための鍛錬（訓練）③昔にとらわれず、順応できる心身を備えることだと思います。従業員の統制がとれていない・技を持っていない・昔の話ばかり自慢気で、現代のルールで仕事をできない会社に『安全』は担保できませんよね？社会人としての人付き合いの上手さや、仕事への謙虚さも非常に大切です。仕事の確保が難しくなっている現代において、協業他社より秀でるには、『ムラの無い社員共育・あの会社に任せれば線路が綺麗になる・何かあっても直ぐに対応してくれる』これらが必須です。傲慢な会社に明るい未来はありません。とにかく、安全に仕事をするために何を安全と考えられるかと、自分たちが仕事をもらうために、いかに日頃から基盤固めを行えるか。そうやって地道に安全を培った会社が、これからも生き残ります。失敗を恐れずに、むしろそれを糧にして成長し、所員一丸となって頑張りましょう！

宇都宮LRT開業に貢献

▶ 試運転を重ね開業を待つ
スタイリッシュなLRT車両



宇都宮事業所 副所長 森 和大

皆さんお疲れ様です。今年の夏は残暑が長引き、9月の中旬になっても現場作業をする私たちにとってはとても辛い日々が続いていますが、皆の暑さ対策への配慮や気配りなど意識が高いことが功を奏し、今年度は熱中症者が出なかったことに喜びと、暑さに打ち勝つために進化したなど感じています。

さて今回は題名にもある通り、私達が住

む宇都宮市にLRT(路面電車)が8月26日に無事に全線開通いたしましたことを報告いたします。このLRTは国内で75年ぶりとなる路面電車の新規事業として、メディアからの関心も高いものでした。宇都宮事業所としては館林事業所の助勤という形で作業に従事しました。2022年の4月中旬からこの現場に従事するようになり、昼夜ともに多い時で10名程度お世話になりました。私も数回従事しましたが、レール運搬や注入、軌道整備など非常に勉強になりました。この工事に関して世間の目は非常に厳しく、横断歩道のない箇所での道路の横断や休憩時のマナー、車両の駐車方法などなど…とても厳しい環境のなか、館林事業所の皆さんが謙虚にこなし見習わなくてはいけないことが多数ありました。

最後になりますが、間もなく10月から下期に突入します。宇都宮事業所に関しましては、日光在姿ロングや烏山BVの最終工事、烏山線のLMTなどなど様々な工事が目白押しです。しかしながら、最近になり重大事故には繋がっていないものの一步間違えば…という事象があります。このちょっとしたことに感度を上げ、【声かけ、気づき、連絡、報告、相談】を徹底して行い、下期の事故発生を完封していきましょう。

報告・連絡・相談

宇都宮事業所 副所長 荒田 智弘

気が付けばもう10月、2023年も残すところあと3ヵ月。みなさんはどうお過ごしでしょうか？過酷な暑さも和らぎ過ごしやすい季節になってきました。『秋といえばランキング』に少し触れてみたいと思います。1位 紅葉の秋 2位 食欲の秋 3位 スポーツの秋というデータがあります。休日に紅葉を見に行くのも良いでしょう。何か体を動かすのも良いでしょう。プライベートを充実させることにより仕事のモチベーションが上がるという効果もあるそうです。仕事と休日のメリハリをしっかりとつけていきたいものですね。

これから繁忙期に入るにあたり、大きな輸送障害にはならなかったものの反省の残る事象について振り返りたいと思います。7/25、26に施工したレール交換(ハック)にて溶接したレールボンドが2週間後には連続して脱落する事象が発生しました。今まで個人の施工方法に任せていた面もありましたので、再度勉強会と施工方法の周知を行い、現場ではしっかり時間を



かけて取付ることを徹底して、再発防止に努めました。

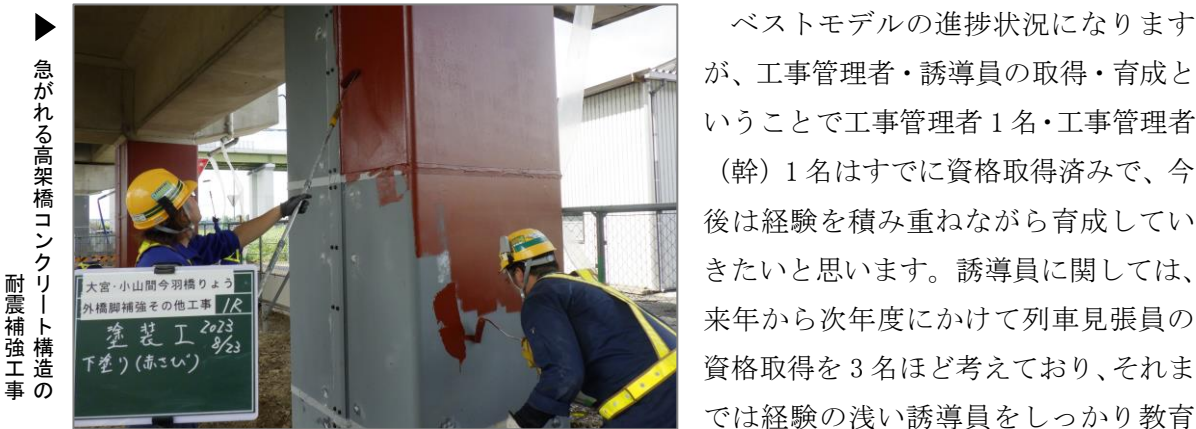
9/10 材料を忘れレール交換作業を中止（当夜の軌工管は自分でした。）

詳細は省きますが線閉着手寸前で社員より材料がないとの声かけをもらいました。その声かけがなければレールを切断し、大きな輸送障害になっていました。対策については、社員全員で再発防止に取り組んでいます。そして何よりも問題なのは、自分で考えユニオン建設様と相談し、中止の判断をしたこと。なぜ上司に一報を入れ相談し指示を仰げなかったのか。それが一番の問題でした。現場では様々なトラブルが起きます。まず、冷静になり、報告・連絡・相談し知恵を借り対処方法を考えるというのが自分の反省です。

下期は今まで以上に重機作業がメインになってきます。USP マクラギ交換、ベアリング床板化、日光駅スリム化工事、土留め修繕など輻輳してきます。何か不安に思ったら声を出す。これは必要なことです。そして声かけをもらったらありがとう。その気持ちがあれば声かけは減ります。安全な現場ではなくなってしまいます。『声かけ・確認会話の充実』耳にたこができるほど聞いていると思いますが、これに勝るものはありません。社員みんなで安全な職場を構築していきましょう。

やる気ひとつで何でも出来る

古河事業所 所長 大宮 勇司



急がれる高架橋コンクリート構造の
耐震補強工事

ベストモデルの進捗状況になりますが、工事管理者・誘導員の取得・育成ということで工事管理者1名・工事管理者（幹）1名はすでに資格取得済みで、今後は経験を積み重ねながら育成していきたいと思います。誘導員に関しては、来年から次年度にかけて列車見張員の資格取得を3名ほど考えており、それまでは経験の浅い誘導員をしっかり教育

していきたいと考えています。次に、土木工事に特化した作業責任者・オペレーターの育成ですが、現在作業責任者2名を工事管理者指導のもと現場を持たせながら教育中で、今後も継続しスキルアップさせていきます。高所作業車のオペレーターは現場数も多く、毎月行っている異常時対応訓練の成果もあり順調に進んでいますが、重機オペレーターに関しては、現場数が少なく苦戦していて、下期から極小橋梁工事が始まるので工事の工期中に育成していきたいと考えています。

月間・週間工程も各役職者が現場に専念できるよう専任化した番割を組むように取り組んでいます。今後も全員でベストモデルの重点実施項目に取組み目標を達成できるように努力していきましょう。また、今月から10月にかけて高尾切替工事の準備作業・いわき地区路盤強制振動と遠距離の現場もあります。交通事故を起こさないように皆で運転中の声掛けをしっかり



行っていきましょう。また、耐震補強工事・防草対策工事・極小橋梁工事など仕事が多岐に行っていますが、まずはルールを遵守し安全作業に努めて、事故を起こさないように古河事業所全員が気を抜くことなく日々努力していきましょう。

皆の「変化」に期待



備えなければ「未来」への道筋が途絶えることとなります。

現在私たちは「新幹線・補修作業」「耐震補強」「埼京線ホームドア設置」「高所の線路近接木伐採」の工事受注へ向け、とても「強欲」な体制強化を行っています。一人では何も出来ませんが「大宮所長」が求心力となり、ゆっくりですが前進しています。

2023年度後半戦は、「耐震補強工事」「極小橋梁切替工事」「大宮駅新幹線ホーム修繕」等が目白押しで計画されているため、人員数以上の期待を古河事業所は一身に受けています。今後施工を完遂するために「品質管理」「工程管理」「保安体制」など新幹線・在来線では異なりますので、全員の理解度を高めなければなりません。スピードをもって行動し、これからもユニオン建設様の「期待」に応えられる体制を構築していきます。

大規模工事で信頼される



2023年度の上期が終わり、昨年度の上期と比較すると前年割れをしています。やはりLRT工事の影響が大きく、今年度の上期は建設工事、修繕工事のみで売上高も苦戦を強いられています。下期工事を見ると古利根橋梁改修工事や春日部高架化工事を軸に回って行きます。その他に東武鉄道様の建設工事、修繕工事が多くなる見込みで、そこで売上高の挽回をしたいと思います。

今年の館林ベストモデルの中に作業指揮者のレベルアップを掲げています。昨年

